

第5回  
十湖賞  
俳句大会

生きとし生けるもの  
その命をいつくしむ。

身近な  
生きもの

— 入選句集 —



平成25年2月発行

〈発行元〉 浜松市東区俳句の里づくり事業実行委員会

〈事務局〉 浜松市東区役所区振興課内

浜松市東区流通元町20-3

TEL053-424-0115 FAX053-424-0131

Eメール e-shinko@city.hamamatsu.shizuoka.jp

# 十湖と東区俳句の里づくりについて



松島十湖は江戸の末期、現在の浜松市東区豊西町に生まれた俳人にして政治家。さらには地域貢献に努めた篤志家です。生涯に創られた句は七千ともいわれ、全国各地に多くの門人がいたとされます。

東区ではこうした十湖の遺徳を称えるとともに「土の詩人」として生きた十湖の心を今に伝えるべく「十湖賞」俳句大会を開催いたしております。

今でも、東区内には句碑群が残存しており、同時にまた多くの俳人をも輩出し、俳句の里としての側面を垣間見ることができます。

東区及び実行委員会では、この様な背景のもと、「浜松市東区俳句の里づくり事業」を行っております。

## 第五回「十湖賞」俳句大会 入選句集

平成二十五年三月十日(日)

於 浜松市総合産業展示館北館四階一号ホール

### 目次

ごあいさつ …… 2・3

十湖大賞 …… 4

十湖賞 …… 5

東区長賞  
県教育長賞  
市教育長賞 …… 6

特選 …… 7

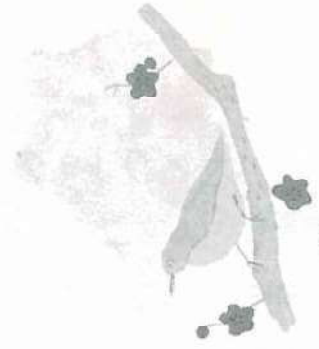
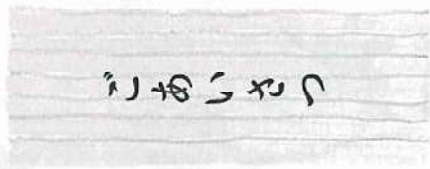
佳作 …… 8・9

奨励賞 …… 10  
5  
13

### 第5回「十湖賞」俳句大会 投句実績

一般の部		高校生の部		中学生の部		小学生の部		全 体		一般の部・地域別		
人数	投句数	人数	投句数	人数	投句数	人数	投句数	人数	投句数	地域	投句数	合計
690	2,253	1,222	3,226	2,433	5,701	2,214	5,992	6,559	17,172	市内	1,278	2,253
										県内(浜松市外)	241	
										県外	734	





浜松市東区俳句の里づくり事業実行委員会

委員長 松島 知次

「十湖賞」俳句大会は第5回という節目の大会を迎えました。応募総数は6559人、1万7172句と第4回を556人、3152句上回り、節目にふさわしい大会となりました。投句された方々には感謝申し上げるとともに、主催者として大会規模の拡大に大きな喜びを感じております。

第5回では、これまでの大会を通じて初めて小学生が十湖大賞に輝きました。浜松市東区俳句の里づくり事業では、平成21年度から俳句大会のほかにも、地域の俳句愛好家の方々を講師に迎え、区内の学校で俳句講座を実施してきました。今回の受賞は講師の方々や学校での熱意あるご指導の賜物であるとともに、東区の子どもたちに俳句文化が根付いてきているあかしであると実感しております。

また、一般の部では、北は北海道、南は沖縄県まで47都道府県から応募いただき、この大会も全国的な広がりを見せております。今後も皆様に愛される大会となりますよう、事業を進めてまいります。

終わりに、入選された皆様への感謝とお祝いを申し上げます。



浜松市東区長 玉木 利幸

浜松市東区は、日本の中心に位置することから古くは東海道や姫街道など、そして現在は東名高速道路、国道1号などが通る交通の要衝として発展してまいりました。街道や徳川家康公ゆかりの史跡など歴史的資源も多数あります。また、古くから俳句も盛んで、芭蕉ゆかりの地元の俳人「松島十湖」の教えにより、区内におよそ400もの句碑が残されている土地柄です。

こうしたことから、本区では平成19年度に「浜松市東区俳句の里づくり事業」を立ち上げ、柱となる「十湖賞」俳句大会は、今回節目となる第5回を迎えました。本年度からは、俳句講座の対象を高校にまで広げるなど、さらなる事業の充実を図ってまいりました。

「身近な生きもの」を句題とした第5回大会では、第4回を大きく上回る1万7172句ものご応募をいただき、非常に喜ばしく思っております。

結びに、募集句をご選考いただきました選者の方々には、心から敬意を表しますとともに、ご応募いただいた方々をはじめ、この大会に携わっていただいた関係の皆様へ深く感謝を申し上げ、ご挨拶いたします。

# 十湖大賞



【小学生の部】

## 紋白蝶色を見つけにひらひらり

与進小学校 六年 伊藤 未侑

【評】 一匹の紋白蝶が、自分に欠けている色というものを求めて飛んでいるという、一篇の童話のような句。発想に加え「ひらひらり」の音の表現も楽しいのですが、すぐれた童話が悲しみを含んでいるのにも似て、色を持たない紋白蝶の哀れも感じさせます。(高柳京弘)

# 十湖賞

【一般の部】 青蜥蜴鋼のにほひ残しけり

浜松市南区 戸塚 きる

【評】 「青蜥蜴」の光沢のある青緑色は、何とも美しい。その艶っぽい蜥蜴を見ていて、彼女の美意識は、たと鋼(刀剣や鎧袴等)の艶を想ったのだろう。しかも「鋼のにほひ」までも。聖美の間を生かす精神あればこそ成った句。(丸尾あきま)

【高校生部】 昨日より今日より明日ぎりぎりす

二條高校 三年 鈴木 佑麻

【評】 ちやんぎす、あるいはぎーちやんぎ、繻紗を誦する「ぎりぎりす」の唄き声。その声に作者は耳を澄ませ、そして自身を投影。助詞「より」を二つ重ねて巧みなり文を醸し出して決意を新たにしている。(津瀬節子)

【中学生の部】 出迎える犬のぬくもり秋の暮れ

天龍中学校 一年 伊藤 謙佑

【評】 私達に最も身近な犬は人々を和ませてくれる。愛犬と呼ばれる理由がそこにある。出迎えてくれる犬が飛びついて抱かれたがる。夏とは違って秋の夕暮れともなると、木の温もりがひひしと伝わって来くらしい。(鈴木裕之)

## 東区長賞

【一般の部】 子子の空覗いてはまた沈む

東区杉並区 長岡 帰山

## 県教育長賞

【高校生の部】 ひぐらしに囲まれ暮らす祖母の家

二区荏原 三年 稲葉麻由加

## 市教育長賞

【中学生の部】 田圃にはおたまじやくしの自由有り

中部中学校 三年 藤本 瑞希

【小学生の部】 星が地に落ちてきたのかてんとうむし

荏原小学校 六年 平川 温士

## 特選

【一般の部】

宗一郎寅桶の街小鳥来る

東区杉並区  
吉川 摩里子

子は学校秋の金魚は尾をゆらし

東区杉並区  
神山 妙子

【高校生の部】

糞虫に生きる辛さを語る僕

東区荏原 二年  
池田 健治

炎天や白き小鳥に水一寸

東区荏原 三年  
荒石 康平

【中学生の部】

日溜りて尾を振る子猫祖母の横

荏原小学校 三年  
鈴木穂乃香

蟋蟀の声を数えて夜すこす

東区荏原 二年  
原山 茂矢

【小学生の部】

せせらぎにキラキラ光るメダカの背

荏原小学校 五年  
川島 梨香

ヒト玉のかがやきみたいとんぼの目

荏原小学校 五年  
牧野 文音

# 佳作

## 【一般の部】

新婚や秋刀魚の腸を抜いてゐる

東京都彩野区  
伊藤 実那

でで虫のつるめばきいと鳴きにけり

茨城県筑西市  
大森 薫

かはるがはる猫の子を抱くランドセル

横浜市港北区  
竹澤 聡

犬鳴いて曳馬野萩をこぼしけり

浜松市中区  
鈴木 文子

遠州の空引き締むる鳴の声

浜松市浜北区  
松本 つね

田一枚めぐり上げたる稲雀

滋賀県草津市  
井上 次雄

## 【中学生の部】

木漏れ日で疎らに光る蟬の羽

須田 澤生  
須田中学校 三年

キリギリス一歩あるくと草の音

丸山 美穂  
葛城小学校 一年

寝転がり麦茶片手に犬と僕

伊藤 裕斗  
身延中学校 三年

鈴虫と共に夜を越す受験生

岩井 優佳  
豊川高級中学校 三年

バッタたちとんで高さを競つてる

名倉 拓海  
井井中学校 三年

芋虫にあだ名をつけて飼つた日々

尾崎 兼夫  
尾道中学校 一年



## 【高校生の部】

水馬水に映つた空を飛ぶ

外山 豪  
浜松学芸高校 二年

田んぼから水鷄飛びたち水光る

北島 絃規  
浜松東高校 一年

鈴虫の求愛耳に眠る夜

渡邊佳奈子  
浜松東高校 一年

君と見た螢の光恋心

鈴木 美波  
二塚高校 二年

ザリガニが真夏の川に色を足す

藤森 美帆  
二保高校 一年

黒猫が一匹泣いた月の夜

鈴木 龍彦  
二塚高校 二年



## 【小学生の部】

冬の夜ひざにねこ乗せ本を読む

加藤 璃緒  
和泉小学校 六年

いい気分トンボがわたしにオニツてした

鈴木 愛唯  
豊立小学校 二年

雨がえるきみの体はえのぐだよ

塩澤 祥大  
豊高小学校 六年

蛇がいるいろんな場所でぼうけんだ

牧田 侑真  
大瀬小学校 四年

しかの子がふんばりふんばり立っている

大畑 慧真  
大瀬小学校 四年

ツバメの子別れを言わずとびたつた

中野 幸  
豊西小学校 六年





【中学生の部】

秋蛍夜空を飛ぶと星になる 与進中学校 一年 加納菜々美

縁側で犬と一緒に見る花火 中野中学校 二年 太田 綾葉

赤とんぼ 大空赤にうめていく 荻井中学校 二年 大谷 昌平

紋白蝶 扇かぬ空へとんでゆけ 与進中学校 一年 中嶋 実緒

雨蛙我が家のドアを守ってる 荻井中学校 三年 下平 蛭

カメたちが花火の音に慌ててる 荻井中学校 二年 澤田 真子

かまきりがかまを振り上げ 仁王立ち 積志中学校 二年 倉田 育実

指きりの小指の先に赤とんぼ 天童中学校 一年 神谷 早咲

蟋蟀は静かな夜の主役かな 天童中学校 三年 杉浦 莉紗

ひぐらしの声聴きながら宿題す 天童中学校 三年 神谷 優希

はじめより小さく見える金魚ぼち 積志中学校 一年 池谷美沙希

ぎこちなく巣から飛びだす子燕達 積志中学校 二年 花島 拓真

陸上部とんぼと一緒に競走中 積志中学校 一年 渡辺 莉央

蟻の列少しもずれず歩いてる 中野中学校 三年 鈴木 汐梨

わたむしはわたの形になってるか 与進中学校 一年 斉藤 光輝

【小学生の部】

はたるがねでんきをつけてけすんだよ 豊田小学校 三年 松井 崇飛

くすぐったい手にのつたのはアントウムシ 積志小学校 四年 山田 美優

あめ上がりくもの巣ひかる七色に 和田小学校 六年 岡本 平

今日やつとお玉杓子に足が出た 清小学校 六年 新堀 晃輔

とんぼたち空に大きな絵をかいた 与進北小学校 六年 平野 真緒

金魚たち赤いドレスでフアッションショー 有玉小学校 六年 中島 美咲

あめんぼがにん者のように進んでく 与進小学校 六年 深澤舞一郎

ゆうやけに蜻蛉の羽がかがやいた 与進北小学校 六年 鈴木 志於美

くものすでやつてみたいなたランボリン 積志小学校 五年 佐田 颯太郎

カマキリを見ているつもりが見られてる 中瀬小学校 六年 杉山 萌

ふくろうよ首を回して何探す 積小学校 六年 高部久理実

かなぶんが夜の電気にたいしゅうご 豊田小学校 三年 渥美 陽向

鯛雲猫が窓からのぞいてる 与進小学校 六年 上條 舞

あげはちよう川のほとりで一休み 和田小学校 六年 白井淳之助

小鳥くる青いお空のどまん中 神谷小学校 二年 川瀬 晶子

夏の蝶青空高く鳥のよう 与進小学校 六年 大須賀純伶

秋の空木の笑くわえりす渡る 積志小学校 六年 濱島 萌絵

タナゴ釣る木かけ見つけていすならん 積志小学校 五年 生熊 渚

ツバメのす中はむちむちまんいんだ 中瀬小学校 五年 鈴木 彰斗

